

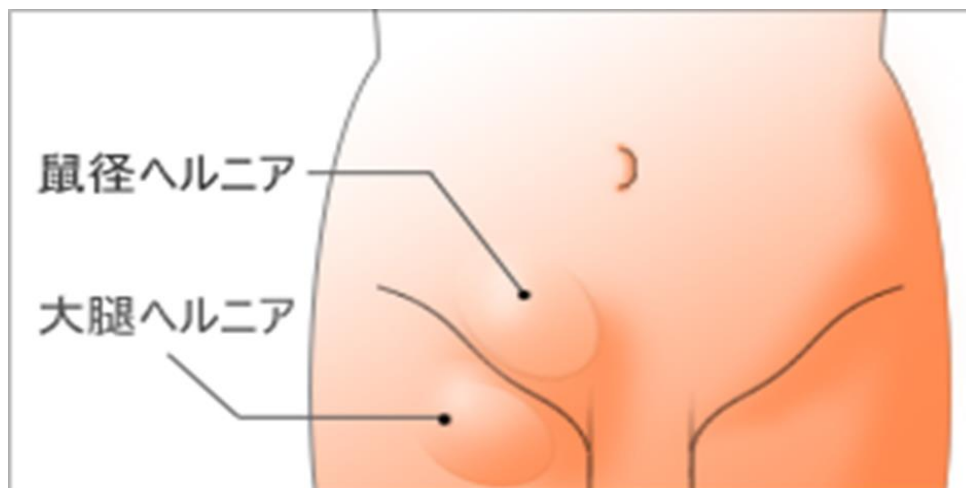
鼠径ヘルニア

症状

症状は、足の付け根の膨隆します。立ったり、腹圧をかけると膨隆が大きくなり、寝たり、お腹の力を抜くと膨隆が小さくなります。

痛みは無かったり、軽度のことほとんどです。ヘルニアとはラテン語で出るものとの意味で、脱腸のことです。

鼠径とは男性が誕生する直前に精巣が腹腔から陰嚢へ移動する際に通るルート。ちなみに「鼠蹊部/鼠径部」という名称は精巣の移動を鼠のそれになぞらえたところに由来している。誕生後の鼠蹊管は男性の場合は精索が、女性の場合には子宮円索を通すのみで閉鎖される。

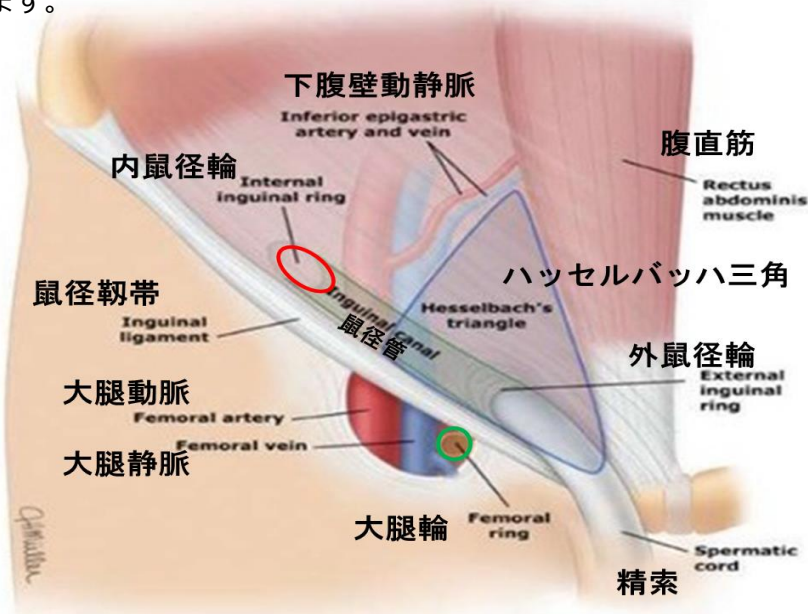


鼠径部の解剖

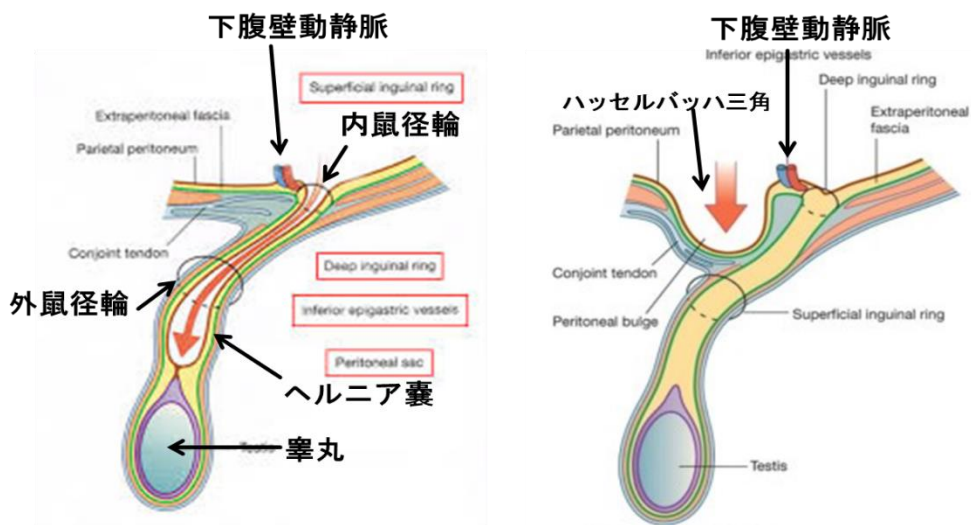
鼠径ヘルニアには外鼠径ヘルニアと内鼠径ヘルニアがあります。

外鼠径ヘルニアは腹膜がヘルニア嚢となり内鼠径輪から出て、外鼠径輪に向かいます。

内鼠径ヘルニアはハッセルバッハ三角（腹筋が脆弱な部位）から腹膜（ヘルニア嚢）が出て膨隆します。



外鼠径ヘルニア & 内鼠径ヘルニア

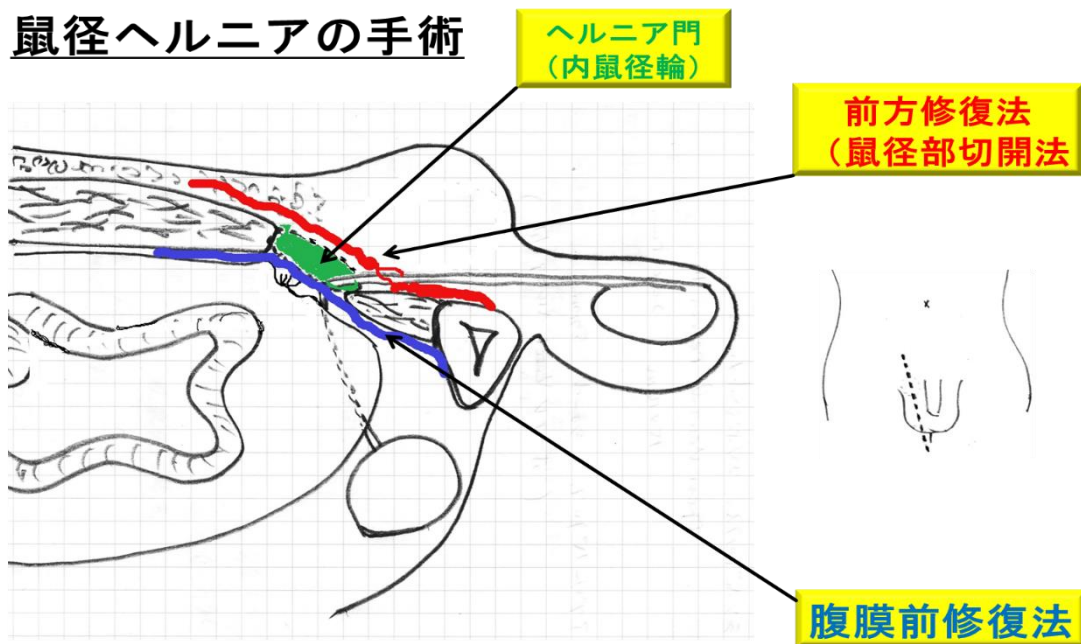


治療法は手術しかありません。

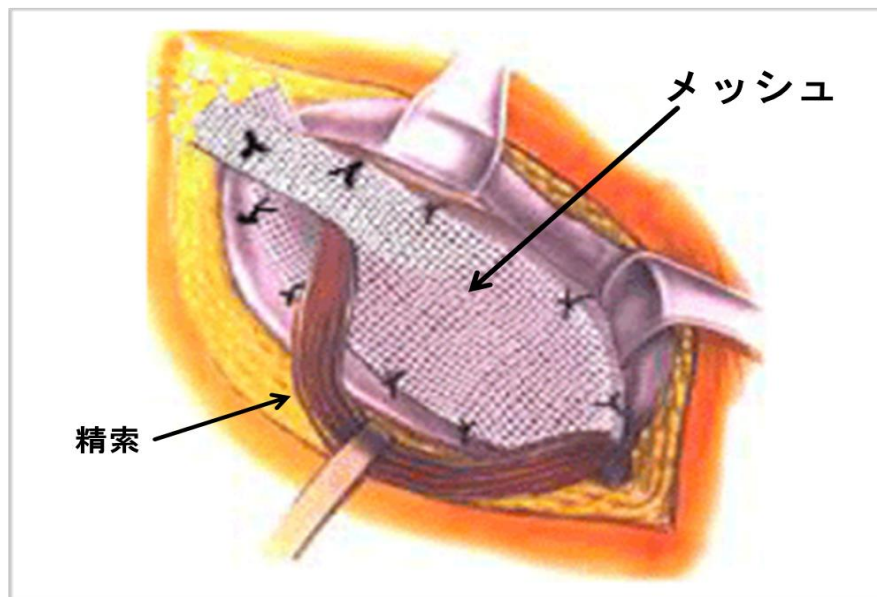
手術はヘルニアで膨隆する皮膚を切開してヘルニア嚢が出てくる穴（ヘルニア門）を前方から閉鎖する「前方修復法」と、腹筋の裏からヘルニア門を閉鎖する「腹膜前修復法」があります。

前方修復法の代表が Lichtenstein 法で、ヘルニア門を上から、人工膜（メッシュ）を用いて周囲の筋肉に縫い付けて閉鎖します。

鼠径ヘルニアの手術

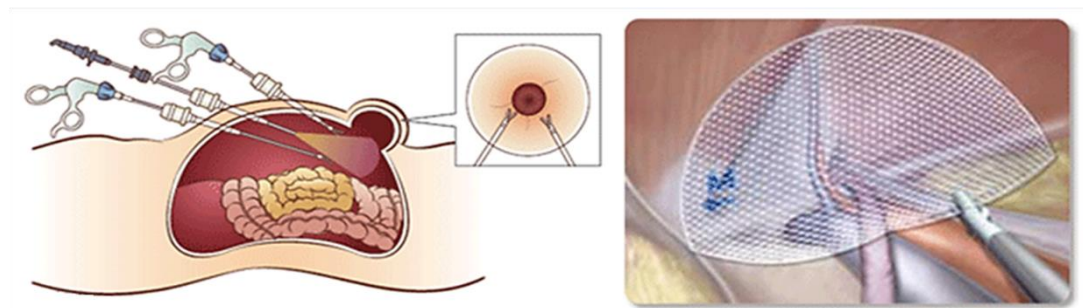
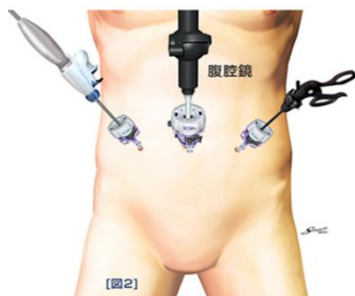


前方修復法（Lichtenstein法）



腹膜前修復法の一つに腹腔鏡で臍から腹腔鏡を挿入し、2つの小孔から鉗子を挿入して、腹膜前に人工膜を固定します。腹腔鏡での手術は小さな傷でできるのがメリットです。

腹腔鏡による腹膜前ヘルニア修復術法 TAPP法



術後合併症は少ないですが、①術後血腫②創部に液が溜まる③陰嚢が腫れる④創感染⑤ヘルニアの再発⑥反対側のヘルニア⑦慢性疼痛など稀に起こることがあります。

術後合併症

- 術後血腫
- 創部に液が溜まる
- 陰嚢が腫れる
- 創感染
- ヘルニアの再発
- 反対側のヘルニア
- 慢性疼痛

鼠径ヘルニアのほとんどが、待機的手術で手術が行われますが、緊急手術が必要になることがあります。それが脱出した腸が嵌頓壊死となる場合です。

嵌頓ヘルニアとは脱出した腸が戻らず、腸閉塞となり、さらに血流障害をきたし、腸が壊死して腹膜炎となる場合があります。嵌頓ヘルニアで腸壊死となると緊急手術が必要です。

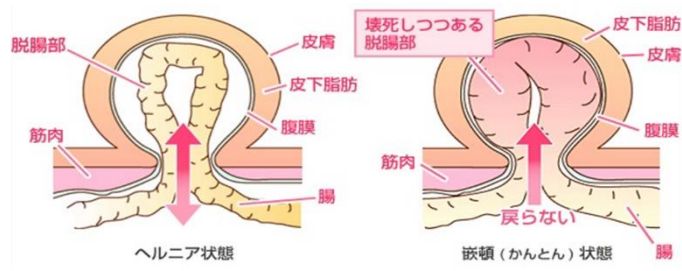
嵌頓ヘルニアの症状は次のような症状です。

鼠径ヘルニアの怖い症状（陥頓ヘルニア）

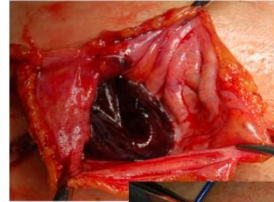
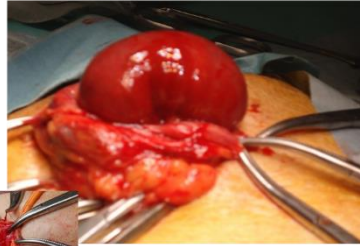
- 鼠径部の膨隆（ふくらみ）が寝ても、戻らない。 ← 陥頓の始まり
- 鼠径部の痛みが持続増強している。 ← 陥頓の進行
- 鼠径部の膨隆が固くなっている。ふくらみの色が赤い。 ← 陥頓した腸の血流が悪くなっている
- お腹全体が張ってきた。悪心（気持ちが悪い）・嘔吐（オエー）・ガスが出ない・便がでない。 ← 腸閉塞の症状
- お腹全体が痛い。発熱がある。 ← 腹膜炎の症状

腸の陥頓の症状

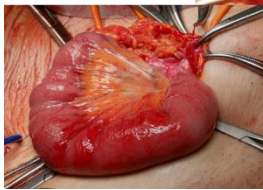
緊急手術
(腸切除が必要かも)



嵌頓で血流障害で赤くはれてる腸



黒く壊死した腸



小腸部分切除施行

嵌頓が解除され血流障害が改善した腸

小腸部分切除施行